

皆さんとの絆を胸にこれからも前進します！

震災の記録  
松島医療生協



震災3ヶ月目(3/13)  
なるせの郷と前の道路



困難な中であっても、医療生協人として使命感を持ち避難所訪問を行っています。(支援者との打合せの様子)



エレベーターが故障し、  
デイ利用者を2階まで運ぶ全国の仲間



松島医療生協のみなさん

震災翌日以降の活動ですが、12日朝から情報収集に努め、寝たきり患者は町の保健福祉センターに、HOT患者は松島病院に搬送。新富亭に避難していた帰宅可能な利用者は自宅まで送迎し帰宅させました。

なるせの郷の行方不明者の捜索開始と3/14医科診療再開にむけへドロかきと2階デイケア室を臨時診察室として準備を行いました。内科は3/14からつばさ薬局の皆さんの協力を貰い午前みの診療再開、午後は避難所、地域訪問、各部署とも再開準備をすすめながら訪問行動に取組み3月中に復帰することが出来ました。介護事業所の職員は介護部長を先頭に津波被害の「なるせの郷」の職員と当日利用者の安否確認と家族の連絡や説明に連日奔走しました。松島医療生協の被害・被災状況ですが、なるせの郷職員3名、利用者12名死亡。施設面ではなるせの郷は全壊で8月に更地となっています。松島海岸診療所ではレントゲン撮影・現像機一式はじめ、エアコン関係が使用できなくなり、2010年度資産上2900万円、11年度は1400万円の災害損失計上となりました。

絶望と不安、仲間を失った悲しみ、事業所倒産の不安等が襲う中で私たちの支えとなってくれたのは、全国から駆けつけてくれた全日本民医連・医療福祉生協連の支援でした。当初は山積みとなった克服すべき課題の重圧の中で支援者の対応をしなければならぬ負担と仲間を失ったなるせの郷での写真撮影をしている姿を見て疎ましく感じる一方で、全国から多くの支援の方が来てくれているのに「ありがとう」の一言も言えない自分自信の不甲斐なさに情なさも感じました。しかし、次々と贈られてくる多くの支援物資と激励のメッセージ、支援者のこの事業所の復興の力となるという熱い想いに心が打たれました。全国支援は3/13日から始まり4/30まで延べ300人余り組合員訪問総数は1702件になりました。内容は多岐多様にわたり診療所や地域でのへドロかき、避難所への医療支援、組合員さんを含む地域訪問等を行いました。

多くの支援を受けて今年度黒字経営を確保していますが、それは職員の大きな犠牲そして県連内の協力があったのものでした。歯科では医師2名、衛生士3名が退職、それと県連内の事業所や町内のグループホームへ職員が外向しています。「まつしまの郷」として、松島町に施設を移しデイサービス、介護相談センター、訪問看護STを併設した介護の複合事業所として建設計画をすすめています。また歯科の2階への移転計画を検討中です。

いつもおおらかで心やさしかった山崎さん、いつも前向きで何事にも積極的に取り組んでいた高橋さん、そしていつも笑いの中心には土井所長がいて、責任感が一歩強かった土井所長。亡くなった職員は利用者さんをかばうようにしてなくなっていたという話を聞いて涙がとまりませんでした。自分が助かるように動けたはずなのに、階段を登れば助かったのに、最後はどんなに辛かったただろうか。失った物はあまりにも甚大ではかりしれません。しかし、私達は全国の支援の皆さんから「一歩ふみだす勇気を与えていただきました」「絆」という繋がりを得、これからも途切れる事なく未来へ繋いでいけるよう、感謝の気持ちを忘れずに松島医療生協は一つとなって復興再建へ向けて前進していきたいと想います。

最後になりますが、被災後、県連内の民医連の方々より沢山の支援やあたたかい励ましをいただきましてこの場をお借りして御礼を述べさせていただきたいと思っております。「あたたかいご支援心より深く感謝申し上げます。ありがとうございました」